

令和元年度 南が丘小学校の学校自己評価

— 二学期取組の結果と三学期の途中経過 —

1 二学期取組の概要

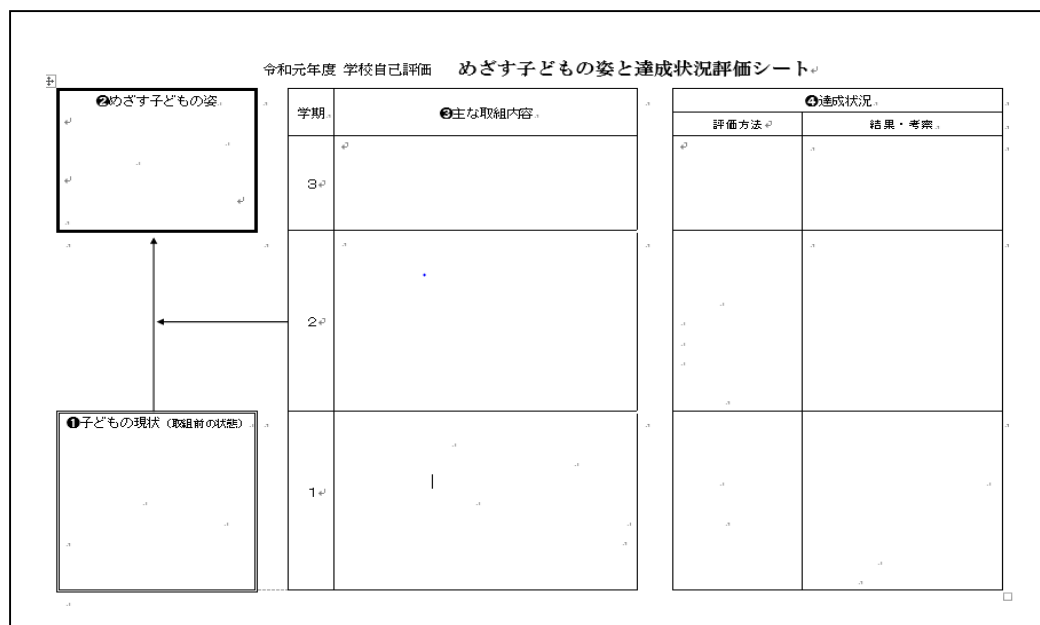
(1) めざす子どもの姿

取組によって実現をめざす姿として、次の6点を設定しました。

- | | | |
|--------------------------|--------------|---------------|
| I 学び合い とともに高まり合う子 | ①進んで学習に取り組む子 | ②聴き合い伝え合える子 |
| II 自分や身近な人を大切にする子 | ①進んであいさつをする子 | ②気持ちを考え行動できる子 |
| III 安全と健康に気をつける子 | ①きまりを守る子 | ②ものを大切にする子 |

(2) 「めざす子どもの姿と達成状況評価シート」(以下「評価シート」と略記)

取組を進める上での教職員の情報共有のツールとして、4項目(「子どもの現状(取組前の状態)」「めざす子どもの姿」「主な取組内容」「達成状況」)で構成する「評価シート」を、めざす姿別に6シート作成しました(図1参照)。



The figure shows a template for the 'Evaluation Sheet' (評価シート) for the 'Target Children's Posture and Achievement Status' (めざす子どもの姿と達成状況). The sheet is titled '令和元年度 学校自己評価 めざす子どもの姿と達成状況評価シート'. It is divided into four main sections: ① めざす子どもの姿 (Target Children's Posture), ② 子どもの現状 (取組前の状態) (Current Status (Before Intervention)), ③ 主な取組内容 (Main Intervention Content), and ④ 達成状況 (Achievement Status). The 'Achievement Status' section is further divided into 'Evaluation Method' (評価方法) and 'Results/Reflection' (結果・考察). The 'Current Status' and 'Target Children's Posture' sections are linked by arrows, indicating a flow from current status to target posture. The 'Main Intervention Content' section is a large table with three rows labeled '3', '2', and '1' in the '学期' (Term) column. The 'Achievement Status' section is a large table with three rows labeled '3', '2', and '1' in the '学期' (Term) column.

図1 評価シート

(3) 評価

一学期同様、各めざす姿の達成状況を学期末に次の2つの方法で評価しました。

① 教員の観察による評価

各子どもの姿について、4件法で評価します。

4 : 「十分達成できている」と判断されるもの

各学級の85%以上の子どもが達成できている場合

3 : 「おおむね達成できている」と判断されるもの

各学級の70%以上85%未満の子どもが達成できている場合

2 : 「努力を要する」と判断されるもの

各学級の55%以上70%未満の子どもが達成できている場合

1 : 「一層努力を要する」と判断されるもの

各学級の55%未満の子どもしか達成できていない場合

② 児童への質問紙調査

各学期末、児童を対象とした質問紙調査を行います。質問紙は、学年別に6種類作成しました。一学期は、めざす子どもの姿に対応した6つの質問を設定しました。この6つの質問では、めざす子どもの姿ごとに1～3点設定した学年別の具体的な評価規準を一つにまとめているため、児童が評価しにくいのではとの意見をふまえて二学期は、学年別評価規準に対応した具体的な質問を設定しました。(児童には、「学習・生活ふり返りシート」の名称で示します。図2参照)。児童には各質問に対し、「よくできた」「できた」「あまりできていない」「できていない」で回答させました。

南が丘小学校 学習・生活ふり返りシート 6年生用				
6年()組()番 名前()				
二学期のあなたの学習と生活の様子についてふり返り、当てはまる記号(ア～エ)に○印を付けましょう。				
①チャイムと同時に授業を始めた。	ア:よくできた	イ:できた	ウ:あまりできていない	エ:できていない
②自主学習に積極的に取り組んだ。	ア:よくできた	イ:できた	ウ:あまりできていない	エ:できていない
③復習に積極的に取り組んだ。	ア:よくできた	イ:できた	ウ:あまりできていない	エ:できていない
④相手の意見と自分の考えを比べながら聴いた。	ア:よくできた	イ:できた	ウ:あまりできていない	エ:できていない
⑤具体例をあげて自分の意見を伝えた。	ア:よくできた	イ:できた	ウ:あまりできていない	エ:できていない
⑥自分から相手の目を見て、気持ちのいいあいさつをした。	ア:よくできた	イ:できた	ウ:あまりできていない	エ:できていない
⑦あいさつをされたら返した。	ア:よくできた	イ:できた	ウ:あまりできていない	エ:できていない
⑧相手の立場に立って、声をかけたり行動したりした。	ア:よくできた	イ:できた	ウ:あまりできていない	エ:できていない
⑨よいことと悪いことを判断し、正しい行いをした。	ア:よくできた	イ:できた	ウ:あまりできていない	エ:できていない
⑩教室や廊下での正しい過ごし方を守った。	ア:よくできた	イ:できた	ウ:あまりできていない	エ:できていない
⑪時刻を見て行動した。	ア:よくできた	イ:できた	ウ:あまりできていない	エ:できていない
⑫自分の持ち物は自分で管理した。	ア:よくできた	イ:できた	ウ:あまりできていない	エ:できていない
⑬校舎をきれいに保てた。	ア:よくできた	イ:できた	ウ:あまりできていない	エ:できていない

図2 「学習・生活ふり返りシート」(6年生用)

2 二学期取組の結果

(1) 教員の観察による評価の結果

めざす姿別の各学年の結果を次の表に示しました。一学期の結果も示し比較できるようにしました。各項目の下段に一学期の結果を示し、2学期の結果は網掛けで表示しました。

学年	I①	I②	II①	II②	III①	III②
1年	3	3	3	3	2.8	3
	3	2	2.6	2.8	2	2
2年	3.2	3.2	3.6	3.2	2.8	3
	3	2.2	2.8	3	3	2
3年	3	3	3.5	3.25	3	3
	2.75	2.25	3	2.75	2.5	2.5
4年	3	3	2.75	2.75	3.25	3
	3	2	2	3	2.25	2.5
5年	3	3	2.25	2.75	3.25	3
	2.25	2	2.5	3.25	3.25	3
6年	3	3	2.5	2.5	3.25	3
	2	2	2	2.89	3	2.25
平均	3.03	3.03	2.93	2.91	3.06	3
	2.67	2.08	2.48	2.99	2.67	2.38

表1 二学期 観察による評価の結果（下段の数字は一学期の結果）

一学期末、達成状況において課題が確認されたI②（聴き合い伝え合う子）、III②（ものを大切にする子）については、改善されたことが分かります。I②は0.95ポイントの向上が見られました。また、III②においても0.62ポイントの向上を図ることができました。その他の姿においても、I①は0.36ポイント、II①は0.45ポイント、III①は0.39ポイントと、向上の傾向が見られました。

今後は、一学期と同水準にあるII②（気持ちを考え行動できる子）を重点的に取組を進めていく必要があります。

(2) 児童への質問紙調査の結果

集計結果（全体の平均値）をグラフ化しました。（図3参照）めざす姿別の全校児童の内訳（「よくできた」「できた」「あまりできていない」「できていない」の比率）が示されています。一学期の結果も掲載し、比較できるようにしました。左側（濃いグレイの棒）は一学期の結果、右側（薄いグレイの棒）は二学期の結果を表示しました。

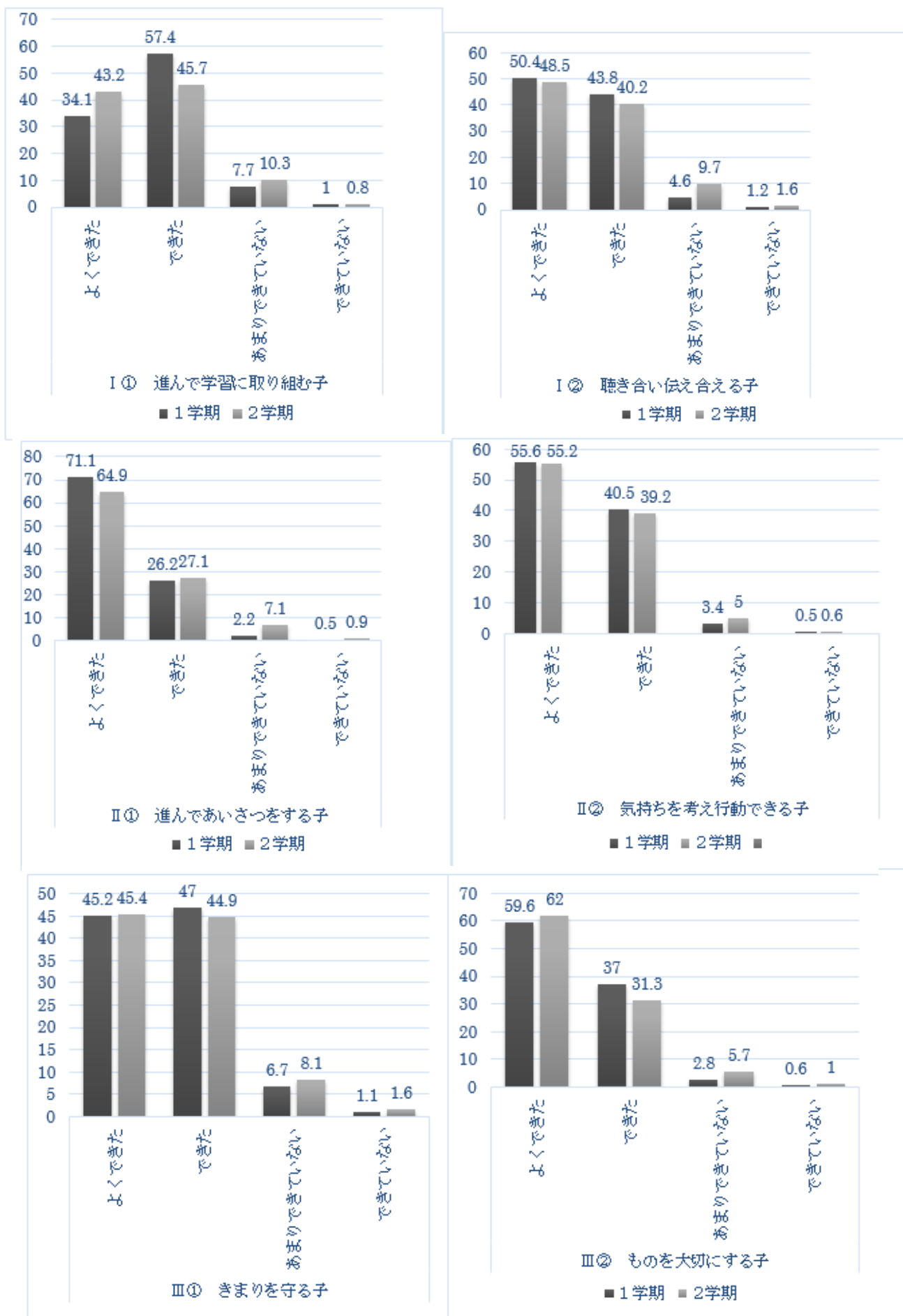


図3 二学期 児童への質問紙調査の結果

教員と児童の間でイメージする姿を共有するために具体的な学年別評価規準を設定しましたが、「教員の観察による評価の結果」と「児童への質問紙調査の結果」との間に隔たりがあることが課題となりました。

「児童への質問紙調査」では、二学期は、学年別評価規準に対応した質問を設定しました。めざす子どもの姿に評価が2～3点ある場合は、その平均で評価をすることにしました。その結果、ほぼ6つの姿において、「できた」と評価する子どもが減り、「あまりできていない」と評価する子どもが増える傾向が見られました。この結果から一学期と比べ、評価の正確さが増したと考えられます。

しかし、「教員の観察による評価」と比較して「児童への質問紙調査の結果」が高い傾向が依然として見られます。この傾向を「現状に満足していることの現れ」と見るならば、自己の一層の成長を志し、より高い理想をめざそうとする意識を喚起するような効果的な働きかけの工夫が必要と言えます。

3 三学期の取組の途中経過

(1) 取組内容

三学期の始業式において、学校長が児童に対し「6つのめざす子どもの姿」に係る二学期の成果と課題について話し、児童の課題意識と取組意欲を喚起しました。各学級において、各担任が、二学期の取組の詳細を説明し、行動化を促しました。その際、児童と教員との間でめざす姿のイメージ共有をめざし、具体的な評価規準を示しました。

二学期の取組結果を踏まえ、現在、全校で次のように取組を進めています。「主な取組内容」は、7頁以降の各「評価シート」、③「3（学期）」に示しました。

三学期は、I①1b「具体的な目標・評価規準を教室掲示し、意識させるとともに具体的な手立てを行う」、II②1「子ども同士をつなげる活動、達成感を得られる活動、承認される場をより増やしていく」等の取組が示すように児童への活動目的の明示や成長の実感が得られるような実践を工夫することによって、めざす姿へ向けた児童の意識喚起をねらった取組を進めています。

(2) 評価

2月上旬、次の評価を行います。

- ① 教員の観察による評価（全学級）
- ② 児童への質問紙調査（全学級）

(3) 結果の分析・考察と三学期の「主な取組内容」の決定

三学期の取組結果の分析・考察を行い、「主な取組内容」が適切かつ効果的であったかを検討します。同時に、本年度の取組の到達点である「年度末の子ども達の現状」をめざす姿ごとに確認します。これが次年度の「評価シート」の①「子ども達の現状（取組前の状態）」となります。

(4) 本年度取組の総括

修了式において、学校長が本年度の取組を総括し、来年度も継続して取り組む項目と改善すべき項目について確認します。これを受け、担任からも本年度の取組を総括した具体的な話をし、来年度への児童の意欲を高めます。